

OS 管理者パスワード変更手順

対象バージョン: SSC 3. x

概要

管理サーバ / 管理対象マシン / 仮想マシンサーバ / Rescue VM の OS 管理者権限を持つアカウントのパスワードを変更した場合、SigmaSystemCenter のコンポーネント (SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視、ESMPRO/ServerManager) に影響があります。各コンポーネントの設定変更手順を記載します。

各コンポーネントへの影響

SigmaSystemCenter の各コンポーネントについて、以下の設定変更が必要です。

- 管理サーバ

- SystemProvisioning

SystemProvisioning のアカウントは、OS のアカウントと独立しており、OS アカウントのパスワード変更には影響を受けません。

VMware vCenter Server は、OS アカウントを使用します。

VMware vCenter Server アカウントのパスワードが変更された場合、SystemProvisioning で設定した vCenter Server アカウントのパスワードを変更する必要があります。

- SystemMonitor 性能監視

性能監視サービスの実行アカウントのパスワード、および管理コンソールから、管理サーバ (性能監視サービス) への接続アカウントのパスワードが変更された場合、SystemMonitor 性能監視での設定を変更する必要があります。

- ESMPRO/ServerManager

権限 (所属グループ) が変わらないため、特に作業は必要ありません。

ただし、マネージャ通報 (TCP/IP Out-of-Band) を使用している環境で、宛先設定に使用しているマネージャ側のユーザ名、およびパスワードが変更になった場合は、ESMPRO/ServerAgentService、または ESMPRO/ServerAgent 側で、マネージャ通報の宛先設定で接続ユーザ名とパスワードの再設定が必要です。

注

ESMPRO/ServerAgentService (Windows 版)、または ESMPRO/ServerAgent (Windows 版) で、管理対象マシンの IP アドレスを通報先に設定している場合のみ対象となります。

- Rescue VM

VMware vCenter Server アカウントのパスワードが変更された場合、Rescue VM で設定した vCenter Server アカウントのパスワードに変更する必要があります。
- 管理対象マシン
 - SystemProvisioning

SystemProvisioning で設定した管理対象マシンのパスワードを変更する必要があります。
 - SystemMonitor 性能監視

性能監視サービスが監視対象マシンにアクセスするためのアカウントのパスワードが変更された場合、設定を変更する必要があります。
- 仮想マシンサーバ
 - SystemProvisioning

ESX Server の root パスワードを変更した場合、SystemProvisioning で設定した ESX Server のパスワードについて変更する必要があります。
 - SystemMonitor 性能監視

性能監視サービスが監視対象マシンにアクセスするためのアカウントのパスワードが変更された場合、設定を変更する必要があります。
 - Rescue VM

ESX Server の root パスワードが変更された場合、Rescue VM で設定した ESX Server の root パスワードに変更する必要があります。
- Rescue VM
 - SystemProvisioning

Rescue VM の root パスワードを変更した場合、SystemProvisioning で設定した Rescue VM のパスワードについて変更する必要があります。

変更手順

管理サーバ / 管理対象マシン / 仮想マシンサーバ / Rescue VM で、OS 管理者権限を持つアカウントのパスワードを変更した場合、各コンポーネントへのパスワード変更手順を、以下にそれぞれ記載します。

- 管理サーバ
 1. [SigmaSystemCenter Web コンソールでの操作]

パスワードを変更したアカウントを vCenter Server アカウントとして使用している場合、[管理] ビューー [サブシステム] から対象の vCenter Server を選択し、パスワードを変更します。

2. [SystemMonitor 性能監視の管理サーバでの操作]

サービス実行アカウントをデフォルト ("ローカルシステムアカウント") から変更している場合は、以下の手順に従い、設定の確認、および変更を行ってください。

- a. [スタート] メニューから、サービススナップインを起動します。
- b. 右ペインにサービスの一覧が表示されますので、"System Monitor Performance Monitoring Service" を右クリックし、[プロパティ] を選択します。
- c. プロパティダイアログが表示されますので、[ログオン] タブを選択します。
- d. 設定されているアカウントがパスワードを変更したアカウントである場合、アカウントのパスワードを変更します。
- e. パスワードを変更した場合は、サービスを再起動し、正常にサービスが開始されることを確認します。

ヒント

サービス実行アカウントの詳細については、「SystemMonitor 性能監視ユーザズガイド」の「2.5 性能監視サービス実行アカウント」を参照してください。

3. [SystemMonitor 性能監視の管理コンソールでの操作]

パスワードを変更したアカウントを、管理コンソールから管理サーバ (性能監視サービス) への接続アカウントとして使用している場合、以下の手順で設定を変更します。

- a. SystemMonitor 性能監視の管理コンソールを起動します。
- b. ログオンダイアログが表示されますので、変更後のアカウント情報を入力します。
- c. [OK] をクリックし、性能監視サービスとの接続が成功することを確認します。

ヒント

管理コンソールからの管理サーバ (性能監視サービス) への接続についての詳細は、「SystemMonitor 性能監視ユーザズガイド」の「2.5 性能監視サービス実行アカウント」、「3.1 管理コンソールの起動と管理サーバへの接続」を参照してください。

4. [ESMPRO/ServerAgentService、または ESMPRO/ServerAgent での操作]

マネージャ通報 (TCP/IP Out-of-Band) を使用している環境で、宛先設定に使用しているマネージャ側のユーザ名、およびパスワードを変更した場合、以下の手順を実施します。

- a. [コントロールパネル] から ESMPRO/ServerAgent のアイコンをダブルクリックし、[ESMPRO/ServerAgent のプロパティ] - [全般] タブの [通報設定] をクリックし、通報設定ツールを起動します。

ESMPRO/ServerAgentService の場合は、[スタート] メニューから [通報設定] をクリックします。

- b. 「アラートマネージャ」画面の [設定] メニューから [通報基本設定] をクリックします。
- c. 「通報基本設定」画面の [通報手段の設定] タブで、"マネージャ通報 (TCP/IP Out-of-Band)" の左側にある "●" をクリックし、有効 (緑) にします。
- d. [OK] をクリックし、「通報基本設定」画面を閉じます。
- e. 「アラートマネージャ」画面の [設定] メニューから [通報先リストの設定] を選択します。
- f. 通報先から "TCP/IP Out-of-Band" を選択し、[修正] をクリックします。
- g. 「ID 設定」画面の [宛先設定] をクリックします。
- h. 「マネージャ通報 (TCP/IP Out-of-Band) の設定」画面の [IP アドレス(またはホスト名)] に、マネージャマシンの IP アドレスを指定します。

[使用するエントリ] から使用するエントリを選択し、[ユーザ名]、[パスワード] に、選択したエントリの接続に使用するユーザ名とパスワードを指定します。

[ポート番号] を変更する場合は、「6001～65535」の範囲で任意の番号を指定します。

※TCP/IP Out-of-Band の設定を行うには、Windows の [スタート] メニューから [コントロールパネル] - [ネットワーク接続] - [新しい接続ウィザード] にて、ダイヤルアップ接続のエントリをあらかじめ作成しておく必要があります。

※ポート番号は、初期値に問題がない場合は変更する必要はありません。

- i. [通報テスト] をクリックし、通報テストを実施します。
- j. 通報テストが成功したら、[OK] をクリックします。
- k. [閉じる] をクリックし、「ID 設定」画面を閉じます。
- l. [閉じる] をクリックし、「通報先リストの設定」画面を閉じます。

5. [Rescue VM での操作]

パスワードを変更したアカウントを vCenter Server アカウントとして使用している場合、以下の手順を実施します。

- a. `etc/rescue_vm/config.json` に記載した vCenter Server のパスワードを変更します。
- b. `rescue-vm` サービスを再起動します。
 - Red Hat Enterprise Linux 6 の場合

```
service rescue-vm stop
```

プロセスの停止を確認してください。

```
service rescue-vm status
```

プロセスを起動します。

```
service rescue-vm start
```

- Red Hat Enterprise Linux 7 / 8 / 9 の場合

```
systemctl stop rescue-vm
```

```
systemctl start rescue-vm
```

- 管理対象マシン

1. [SigmaSystemCenter Web コンソールでの操作]

[運用] ビューからグループプロパティ設定の [ホストプロファイル] タブで、管理対象マシンのアカウント設定を確認します。

アカウントのパスワードが変更されている場合は、設定を変更します。

[運用] ビューのグループプロパティ設定 / モデルプロパティ設定 / ホスト設定の [性能監視] タブに性能監視の設定をしている場合、指定している接続アカウントのパスワードが変更されている場合は、パスワードを変更します。

[リソース] ビューの管理対象マシンのプロパティの [アカウント情報] を確認します。

タイプ "IB" のアカウントのパスワードを変更した場合は、アカウント情報を編集します。

2. [SystemMonitor 性能監視の管理コンソールでの操作]

SystemMonitor 性能監視の管理コンソールで、監視対象マシン (管理対象マシン) の設定の確認、および変更を行ってください。

監視対象マシンの接続設定は、管理サーバ単位、グループ単位、マシン単位に指定することができます。

以下に、管理サーバ単位で設定する場合の変更手順を説明します。

管理サーバで管理している監視対象マシンすべてに対して、有効な設定となります。

- a. SystemMonitor 性能監視の管理コンソールを起動します。
- b. 管理サーバのアイコンを右クリックし、[環境設定] を選択します。
- c. 環境設定ダイアログが表示されますので、[接続] タブの接続アカウントを確認します。
- d. パスワードを変更したアカウントである場合、パスワード設定を変更します。

グループごと、マシンごとに接続設定を実施している場合は、それぞれのグループ、マシンで設定を確認し、設定変更する必要があります。

ヒント

監視対象マシンへの接続についての詳細は、「SystemMonitor 性能監視ユーザズガイド」の「1.7.2 監視対象マシンへの接続設定」を参照してください。

- 仮想マシンサーバ

1. [SigmaSystemCenter Web コンソールでの操作]

[管理] ビューー [サブシステム] から対象の ESX Server を選択し、パスワードを変更します。

[運用] ビューのグループプロパティ設定 / モデルプロパティ設定 / ホスト設定の [性能監視] タブに性能監視の設定をしている場合、指定している接続アカウントのパスワードが変更されている場合は、パスワードを変更します。

2. [SigmaSystemCenter Web コンソールでの操作]

[管理] ビューー [環境設定] - [仮想リソース] タブで、ESX Server の復旧障害 (フェイルオーバー) 時に使用される ESX Server の root パスワードを変更します。

注

手順 1.にて個別にパスワードが変更されていない場合は、この設定がすべての ESX Server に対する既定値として使用されます。パスワードを変更した場合は、必要に応じて設定が必要になります。

3. [SystemMonitor 性能監視の管理コンソールでの操作]

SystemMonitor 性能監視の管理コンソールで、監視対象マシン (管理対象マシン) の設定の確認、および変更を行ってください。

管理対象マシンの場合と同様の手順となります。

4. [Rescue VM での操作]

パスワードを変更したアカウントを ESX Server のパスワードとして使用している場合、以下の手順を実施します。

- a. `etc/rescue_vm/config.json` に記載した ESX Server のパスワードを変更します。

- b. `rescue-vm` サービスを再起動します。

- Red Hat Enterprise Linux 6 の場合

```
service rescue-vm stop
```

プロセスの停止を確認してください。

```
service rescue-vm status
```

プロセスを起動します。

```
service rescue-vm start
```

- Red Hat Enterprise Linux 7 / 8 / 9 の場合

```
systemctl stop rescue-vm
```

```
systemctl start rescue-vm
```

- Rescue VM

1. [コマンドプロンプト]

SigmaSystemCenter をインストールしたマシンでコマンドプロンプトを起動し、下記のコマンドを実行します。

```
ssc update environment RescuePassword <パスワード>
```

コマンドを実行後に、PVM サービスを再起動します。